



— 特集 —

県下太鼓打競技大会

10

2012
No. 86



INDEX

特集 県下太鼓打競技大会	2 ~ 9
虫歯のない子	10
まちかど News	12 ~ 13
生涯学習だより (秋の増刊号)	20 ~ 21
しかチャンネル番組ガイド	27
長田 萬燈祭	28



県下太鼓打競技大会

第80回県下太鼓打競技大会が9月17日に高浜町の小浜神社で行われた。今年は、過去10年間の大関の中から横綱を決める第7回横綱大会も開催され、太鼓への力強い打ち込み、華麗なバチさばきなどで観客を魅了した。
県内最古の太鼓打競技大会である小浜神社の県下太鼓打競技大会。この歴史ある大会を特集した。

大会の概要

「第〇〇回県下太鼓打競技大会」を正式名称とし、高浜青壮年団が主催。大会長を高浜青壮年団団長が務める。当日のみ競技台が特設される小浜神社境内で行われ、第70回大会が行われた平成14年度までは毎年9月16日に開催していたが、第71回大会からは9月の第3月曜日に開催されてきた。昭和6年（1931年）に第1回大会が行われ、太平洋戦争末期である昭和19・20年（1944・1945年）の2年にわたり開催されなかった年もあった。

出場する組は、大会当日の正午から午後1時まで受け付けした組のみが出場を認められ、出場順は受け付け時にくじ引きで決定する。

大会の特徴

この大会は、大バイ1人、小バイ1人を1組として、たたく時の難度が上がる斜めに傾けてある太鼓をたたく競技大会。小バイのたたくバチは自分たちで持ち込んだものを使用しても構わないが、大バイが手にするバチは主催者の準備したバチの中から使用する決まりとなっている。

審査は現在、6人の審査員により「打ち込み、芸、調子」が採点され、合計点数で順位をつける。

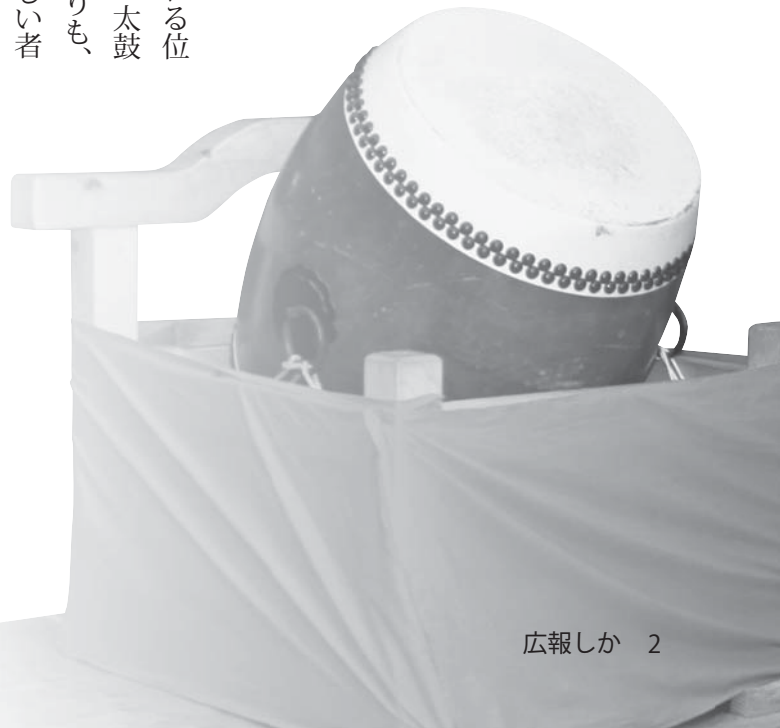
優勝者には「大関」と呼ばれる位が授与されるが、得点の高い太鼓が上手な人が優勝というよりも、毎年1組だけ、大関にふさわしい者を決めるための競技大会である。

競技の内容

審判員の資格を有する人は、横綱大会で横綱となり審判員資格を与えられた人、大会長が招く団体の推薦された人で大会長が認めた人、大会長が招待した人となっている。平成24年現在は、第5代横綱（2人）、第6代横綱（2人）、志賀町商工会から推薦を受けた人（1人）、高浜青壮年団の顧問から1人で、来年度の大会からは、第

7代横綱の2人が新たに審判員に加わる。

採点項目は「打ち込み、芸、調子」の3つの項目で、各10点の合計30点、審判員6人の合計180



～県下太鼓打競技大会の由来～

寛永9年(1632年)の江戸時代に若狭国(現在の福井県)の高浜・小浜から移住した人々の集まりで作られた旧高浜地区。元禄年間(1688～1704年)にはすでに、小浜神社秋季祭礼の際、近隣の若衆たちが集まり競って太鼓を打ち鳴らしていたことが始まりと言われている。

昭和6年から、旧高浜地内の若衆の集まりである高浜青壮年団が、小浜神社秋季祭礼の行事として県下太鼓打競技大会を開催し、石川県内における最初の太鼓打競技大会となった。



点満点として、その累計で競う。バチを落とした場合は、合計点から30点が減点される。バチが折れた場合は、減点とはならないが打ち込みや調子が低くなるため点数は伸びない。バチは主催者側が用意したものであるが、折れそうなバチを選んだほうが悪いということとで、打ち手の落ち度としている。

○競技時間

(競技台で太鼓を打ち込む時間)

小手調べ・・・45秒

(採点対象にならない)

1回戦・・・1分

2回戦・・・1分

3回戦・・・1分

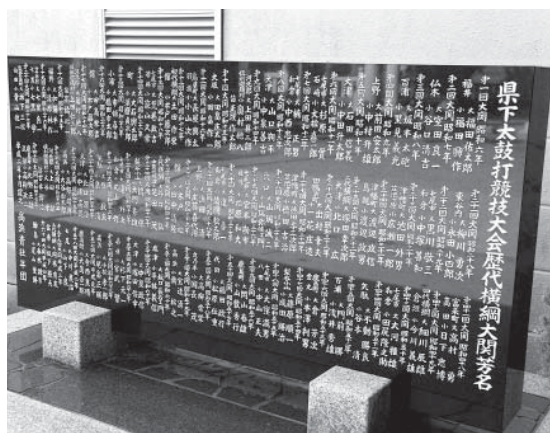
準決勝・・・1分30秒

決勝戦・・・2分

横綱大会・・・2分30秒



入賞者は、決勝に進んだ上位9組が表彰を受け、上位から大関、関脇、小結、番外1等、番外2等、番外3等、敢闘賞3組を決める。最高位となる横綱大会は10年に1



度、過去10年間の歴代大関だけで横綱大会が行われ、審判員の採点により決定される。

歴史ある大会での出来事

雨や台風の影響で志賀町福祉会館(現在の志賀町文化ホール)やのどや配送センター(現在は取り壊されている)で大会が行われたこともあった。

小浜神社境内には第1代から第60代までの大関の名前を刻んだ石碑が建てられていて、拜殿には第61代以降の大関の芳名が掲げられている。



○採点項目

打ち込み・・・鳴らした太鼓の音の大きさを審査。大きい音が好まれる。

芸 …… 打ち姿の美しさや、打ち込みの合間に見せる芸の良し悪しを審査。

調子 …… リズムが揃っているか、乱れていないかを審査

※太鼓の隅をたたいたり、バチ同士をぶつけると評価は低い。



県下太鼓打競技大会審判長と

高浜青壮年団団長

県内最古の歴史を持つ県下太鼓打競技大会で、歴史に名を刻む新たな横綱が誕生するには欠かせない人物がいる。第5代横綱で審判員の資格を与えられた審判長と、この大会の総責任者である高浜青壮年団団長。その2人に県下太鼓打競技大会への熱い想いを聞いた。

■県下太鼓打競技大会とは

先輩から「太鼓打ちである以上、県下太鼓打競技大会に出ることがすべて」と教えられた岡本さん。「厳正な審査のゆえ太鼓打ちが出場したくなるような大会」ということから、大会の重さが伝わってくる。

■この大会の審判員

早く感じた20年間、審判員として携わってきたが、「毎年、8月のお盆過ぎから、この大会に向けての緊張感が漂ってくる」という。大会に出場し、太鼓をたたいていた



▲大会中は気をゆるませることなく、厳正な審査をする。

ときより緊張するという審判員としての立場は、厳正な審査をするために必要なプレッシャーだったのかも

しれない。

毎年、大会後の表

彰式で御幣を渡せば、「大会が終わったなという安堵感でホッとすると話す。

▼表彰式で入賞者に御幣を渡す審判長



■横綱とは

横綱や大関になるような太鼓打ちは、「最後までリズムが一定で、打ち込みの音が安定している」。その中でも横綱になるには、普段の態度や横綱にふさわしい人格が求められていて「98パーセントが

太鼓の技量で、2パーセントは打ち手の人格」と話す。また、「実力に運が巡り合って横綱にふさわしい者が選ばれる」のだという。

■これまでの大会を振り返る

今年で審判長を勇退する岡本さんは、10代の頃から打ち手として大会に出場していた。大関への挑戦、横綱獲得、審判長に就任と、この大会に約45年間携わってきた。「こんな太鼓人生は夢にも思っていなかったが、あつという間だった」と振り返る。

■これからの大会・太鼓

次に審判員となる第7代横綱には「公平な目で審判をしてほしい」と願う。志賀町には伝統ある太鼓が数多くある



▲最後の横綱披露太鼓となった岡本・坂下組

ので、次の世代にも受け継いでいってもらわなければならないと考えている。そのためにも、県下太鼓打競技大会を始め、太鼓を盛り上げていかなければならない想いでいっばいで「これからも現役で太鼓をたたき続ける」と話す。

県下太鼓打競技大会審判長
第5代横綱

おかもと ありとも
岡本 有友さん (62歳)

16歳で県下太鼓打競技大会に初出場し、小バイの坂下隆夫さんと組んで41歳のときに大関、翌年に第5代横綱を獲得した。平成5年から審判員、平成15年から審判長を務める。



高浜青壮年団団長
たかはし なおゆき
高橋 直之さん (31歳)

平成11年、18歳のときに県下太鼓打競技大会を主催する高浜青壮年団に興味を持ち加入。加入14年目で団長に就く。

■10年に1人の団長

10年に1組選ばれる横綱と同じように10年に1人選ばれた団長。「高浜青壮年団の最大行事である県下太鼓打競技大会の横綱大会のある年に団長に就いたことは光栄でうれしい半面、大会に出場する全員が大関、横綱を目指す気迫が伝わり、ものすごいプレッシャーを感じている」と話す高橋さん。大会長であり、入賞者への商品の手配や大会への準備、段取りを念入りに確認し指揮を執る。大会全体の統括として、今年も、副団長、



▲大会大会当日の朝、念入りに競技場の準備をする。

前団長の3人で審判員の自宅に向き大会当日の審判を依頼した。

■10年ぶりの横綱大会

第6回横綱大会のときは、青壮年団に加入したばかりで、先輩からの指示で準備や

運営をしていた。今年1月の総会で団長に就任したときから、横綱大会への緊張を感じていた高橋さんは、「失敗はできない。まとめ役として周りの期待に応えたい」と話す。今は団長としての責任を自覚し、大会に向けて取り組む。10年間の大関が集まり、観客、大会への出場者、青壮年団のみんなが楽しみにしている大会で、「今までの横綱大会での白熱した戦いを再現し、みんなの期待に応えてほしい」と出場者にエールを送る。



▲表彰式で入賞者を表彰する団長

高浜青壮年団にとっての 県下太鼓打競技大会とは

高浜青壮年団のための大会ではなく、小浜神社、大会への出場者などみんなのための県下太鼓打競技大会。「高浜青壮年団の存在は県下太鼓打競技大会が生かしてくれている」という。

10年後は高浜青壮年団を退団しているが、第8回横綱大会が行われる10年後の団長には、「分からないことがあれば頼ってきてほしい」と話す。

これからの 県下太鼓打競技大会

幼少のころから大会に出場してこる本物の太鼓打ちの演技を間近で見てきた団長は、「太鼓が大好きで、特に小浜大会での太鼓の音は、大きさと質、感じるものが他に比べて全く違う」という。青壮年団長として誇りを持っている大会だが、過疎化が進み、大会への出場者や青壮年団への加入者が減少する中、伝統・歴史のある大会をどう続けていくか考える。「青壮年団として工夫しながら全力で大会をバックアップし、これからの大関、横綱を誕生させたい」と話す。



▲大会では静かに競技を見守る



第73代大関・第7代横綱
山崎 朋亮・小畑 賢吾 組
(鵜浦豊年力太鼓)



第75代大関
安田 真也・池田 純 組 (志賀天友太鼓)



第7回横綱大会

～ 栄冠は、山崎・小畑組 (鵜浦豊年力太鼓・七尾) の手に～

第74代大関
本谷 博・谷 政彦 組 (志賀疾風太鼓)



第76代大関
中家 功・天井 誠 組 (志賀疾風太鼓)



第80回県下太鼓打競技大会の準決勝が終わると、高浜青壮年団による横綱大会開始のアナウンスが流れ、続々と歴代大関が集まり、競技台横に並んだ。会場は次第に緊張と熱気に包まれていった。



▲横綱大会前にバチを選ぶ歴代大関

過 去10年間の歴代大関の中から1組の横綱を決める横綱大会。第80回県下太鼓打競技大会の準決勝と決勝の合間に第7回横綱大会が行われた。
この伝統と歴史の大会に、選ばれたものしか立つことのできない横綱大会には、第70回大会(平成14年)から第79回大会(平成23年)までの歴代大関が出場した。



第70代大関
谷内雅人・今川義孝 組 (封戸太鼓)



第7回横綱大会出場 歴代大関

受賞年	歴代大関	大バイ	小バイ	団体名	受賞年	歴代大関	大バイ	小バイ	団体名
平成14年	第70代	谷内 雅人	今川 義孝	封戸太鼓(志賀町)	平成19年	第75代	安田 真也	池田 純	志賀天友太鼓(志賀町)
平成15年	第71代	葛原 伸二	浜下 敏行	香島津太鼓(七尾市)	平成20年	第76代	中家 功	天井 誠	志賀疾風太鼓(志賀町)
平成16年	第72代	垣越 昭一	力野 満	鵜浦豊年力太鼓(七尾市)	平成21年	第77代	杉原 誠也	石黒 敏之	石崎豊年太鼓(七尾市)
平成17年	第73代	山崎 朋亮	小畑 賢吾	鵜浦豊年力太鼓(七尾市)	平成22年	第78代	谷口 衛	中谷 英春	志賀豊年力太鼓(志賀町)
平成18年	第74代	本谷 博	谷 政彦	志賀疾風太鼓(志賀町)	平成23年	第79代	松平 武男	石倉 大作	西湊鬼楽太鼓(七尾市)



第78代大関
谷口衛・中谷英春 組 (志賀豊年力太鼓)



出場する10組のうち1組が欠場。9組での戦いとなる中、どの組も横綱に選ばれてもおかしくない、横綱にふさわしい太鼓を披露した。強弱を付けて打ち込む大バイと正確なリズムを刻む小バイの2人が息を揃え、迫力ある打ち込みをし、境内で見守る観客を魅了した。

結果、第73代大関の山崎朋亮・小畑賢吾組(七尾・鵜浦豊年太鼓)が第7代横綱の栄冠を手にし、長い歴史に新しい名を刻んだ。



▲青壮年団が打ち込み時間を正確に計る

打ち込み時間は2分30秒の1回限りの勝負。本番前に45秒間の小手調べで太鼓をたたき込んだあと、横綱大会が始まった。



第7代横綱・山崎・小畑組

15年、大バイ・小バイとして組み、第7代横綱の栄冠を手にした山崎朋亮（大バイ）・小畑賢吾（小バイ）組（鶴浦豊年力太鼓）に喜びの声を聞いた。



—横綱をとった感想

山崎・小畑 大関を獲得した7年前から横綱大会に向けて、練習を重ねた。今までできて太鼓の集大成として横綱をとれてうれしい。練習の呪縛からやっと解放された気持ちでほっとしている。

—練習はどのくらいしたか

山崎・小畑 嫌になるくらい練習した。あきらめることなく練習してここまでこれた。

—大観衆の中の横綱大会でたたく太鼓はどうでしたか

山崎 応援してくれた人に感謝。小畑 周りのみんなに助けられたたたくことができた。



—今回、横綱を獲得して大バイから小バイへ、小バイから大バイへ伝える感謝の気持ちは

山崎 一言では言い表せないほど感謝している。あえて一言でいうなら「ありがとう」の一言のみ。

小畑 一緒にやってきてよかった。ほんとうにありがとう。

—来年の大会からは審査員の立場だが

山崎 20年間しっかりと審査員として勤めて太鼓に精進していきたい。小畑 健康に気を付けながら審判員としての激務をこなせるよう頑張りたい。

第80回 県下太鼓打競技大会

第80回 県下太鼓打競技大会成績

賞	チーム名	大バイ	小バイ
大 関	仏木組 B (志賀町)	山澤 強志	平木 賢一
関 脇	天友組 (志賀町)	黒田 和行	東山 明雄
小 結	大田陣太鼓 (七尾市)	森田 浩一	寅松 和也
番外一等	富木八幡太鼓保存会 A (志賀町)	屋敷 和正	中棚祥一郎
番外二等	富木神幸太鼓 A (志賀町)	丸山真希男	宅田 欣央
番外三等	徳田組 (志賀町)	茨木 忠和	谷内 憲幸
敢闘賞	志賀豊年力太鼓 A (志賀町)	中泉 貴臣	篠原 浩幸
敢闘賞	石崎豊年太鼓 D (七尾市)	中西 竜次	宮崎 充
敢闘賞	輪島和太鼓 虎之介 F (輪島市)	二木 雅也	出坂 孝志
特別賞	矢駄井坂太鼓 (志賀町)	井坂 学	井坂 剛
特別賞	七尾・香島津太鼓 A (七尾市)	渡 智紀	中西 瑞樹
特別賞	輪島和太鼓 虎之介 B (輪島市)	与畑 拓哉	浜岸富士鷹

第80回県下太鼓打競技大会には、地元志賀町をはじめ七尾や輪島から49組が出場した。1回戦から3回戦準決勝、決勝と戦い、太鼓への打ち込みや芸、調子などを競った。決勝に残った9組から、山澤強志・平木賢一組（仏木組B）が第80代大関の座に輝いた。

▼第80代大関に輝いた山澤（左）・平木（右）組（仏木組B）



◀上位入賞（大関・関脇・小結）した皆さん



今年も県下太鼓打競技大会が
終わった。第7代横綱が誕生し、
第5代横綱が審判員を勇退。歴
史的な瞬間を迎えた今大会は80
回を数える。7組の横綱と80組
の大関が誕生し、数多くの太鼓
が大会で披露されてきた。
大関を目指して太鼓をたたき
続け、新たに頂点を極めたい太
鼓打ちが集う県下太鼓打競技大
会横綱大会が10年後にまた開催
される。